

令和6年度
北海道高等学校PTA連合会「高校生と語るつどい」事業
実施報告書

令和6年12月24日

北海道高等学校PTA連合会 会長 様

北海道高等学校PTA連合会後志支部
支部長 内藤道雄
(当番校名 北海道小樽桜陽高等学校)

本事業が、令和6年12月7日完了したので、次のとおり関係書類を添えて報告します。
記

1 事業実施概要

- (1) 期 日 令和6年12月7日(土曜日)10時00分から12時30分まで
(2) 会 場 小樽市生涯学習プラザ レピオ
(3) 実施形態 ワールドカフェ方式 従来方式
(4) 参加者等

ア 参加学校 8校(校名:小樽潮陵、小樽未来創造、小樽水産、倶知安、寿都、
蘭越、ニセコ、小樽桜陽(当番校))

イ 参加者総数 39名

生徒数	引率数	保護者数	運営者数	その他	合計
22名	9名	5名	2名	1名	39名

(5) 事業内容

ア 事業の概要 ワールドカフェ方式により、高校生と保護者、教員との対話を通じて自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深める。

イ 講師 吉岡大策氏 ロース幼稚園職員(総合職)
吉岡塾(学習塾)代表

キッズルームアップル(保育園)連携推進員

ウ テーマ 「今までの私、これからの私 やる気を引き出す質問」

2 事業実施による成果

SNSにより人とのつながりが一気に広がった一方で、コミュニケーションの困難さを抱えるようにもなった。今回、多世代かつ初対面の人との直接的な対話をとおして「世代の違いを超えて語り合いができた」「やる気を引き出す質問の出発点は自分を知り、相手を知ることだと再認識した」「声かけの仕方によって引き出す言葉が変わる」等の感想が寄せられ、本事業の目的を達成する貴重な機会となった。

3 今後の課題等

本事業に参加した生徒は、しっかりと自らの考えをもち、初対面の大人に対し物怖じせず発言するなど、主体的に取り組む様子が見られた。学校生活を共にする教職員よりも、保護者とのコミュニケーションを重視したい。そのため、各校から保護者の参加を促す工夫が必要。

<記入上の留意事項>

- 「1(5)内容」には、活動の内容を具体的に記載すること。
- 「2 事業実施による成果」には、当該事業により生徒・保護者・学校・地域・家庭等への期待される効果等について、詳細に記載すること。
- 「3 今後の課題等」には、来年度以降の実施にあたり、検討すべき課題等があれば具体的に記載すること。
- 本報告書には、開催要項・参加者名簿・写真等を添付すること。